

留学報告書

21014106 国際文化学科 2年 細野未佳

私はもともと、あまり中国留学に対して興味がありませんでした。金銭的な面において厳しいと思ったのもそうですが、留学に興味を示さなかった最も大きな理由は、私自身が国外から出て4カ月も外国できちんと生活できるのかという不安を覚えたからです。ちゃんと中国語を話せるのか、中国という見知らぬ土地での生活に順応できるのだろうか、など。そんな風に様々なことが懸念事項となり、私は留学に行くということに対してかなり消極的でした。しかし私のそんな考えは、留学経験をした先輩方や先生方の様々なお話を聞いてから変わりました。先輩方や先生方のお話は、日本しか知らない私にとってはとても興味深く、自分の目で確かめてみたいという感情が湧きあがるほどでした。こうして私は、数々の不安を無理矢理押し込めて、中国へ留学することを決めました。確かに、いろいろと苦労したことはあったけれど、留学へ行ってよかったと感じるほどの経験を多く得られたと思います。

8月31日に北京へ向かって出発しました。ですが、とある事情により私たちが乗るはずの飛行機の出発時刻が大幅に遅れ、空港で長時間足止めをくらってしまいました。これから中国に向かうという不安や緊張を抱えながら、なかなか出発しない飛行機をやきもきしながら待っていた覚えがあります。結局、中国に到着したのは夜遅くで、そのときは中国に来たという実感があまり湧きませんでした。けれど、そのあと大学内を案内されて歩いたとき、道行く人々が皆中国語を話しているのを聞いた時、ようやく今までの環境とはだいぶ違う場所にきたのだと感じました。そうして、中国での生活を送っていくうちにさまざまな日本の環境との差異を発見できました。例えば、交通状況。中国の道路には車が溢れかえっている日が多く、渋滞が起きることもしばしばありました。そして、空気汚染。風が吹かない日などは、霧に包まれたようにして向こうが見えないことが多くありました。そんな点においても日本との違いを感じられました。

私たちが留学生活中に過ごしていた学生寮にはレストランやカフェなどがあって、まるでとあるホテルのような寮でした。部屋はとても綺麗で広く、エアコンやストーブなど設備が充実していて、とても快適に過ごせました。また、寮の近くにはスーパーや食堂、コンビニなどがあり、歩いてすぐ行けるのでとても便利でした。そして、水がなくなったり、日用品が必要になった場合は、授業終わりにスーパーへ立ち寄って買うということをしていました。買い物も、学生カードにお金をチャージして支払うようなやり方もあったので、簡単に済ませられました。しかし、ときどき学生カードをスキャンするための機械がエラーを起こして、上手く支払えず、店員に何か言われてもまったく分からないというような事態が起きたりして、留学して少し経ったぐらいのときは対応にかなり困ったときもありました。もちろん、大学の周辺にもさまざまなお店があります。レストランや本屋に、マ

クドナルドやサブウェイなど日本でも馴染み深い店もいくつか発見できます。大学から少し歩けばデパートなどもあったため、留学生活中、不便だと感じたことはあまりなかったと思います。

また、たとえ困ったことがあっても、私たちの留学生活をサポートしてくださる人が周りにたくさんいるので、その点は心配ありません。私は留学中に寮部屋のシャワーが壊れてしまって大変だった時期がありました。そのときは、友人からシャワーを借りたりしてなんとか過ごしていたのですが、中国語が上手く話せなかったため、寮のフロントにシャワーが壊れたことをどう伝えればいいのかわかりませんでした。しかし、私たちの留学生活をサポートして下さっていた中国人学生の黄さんという人が、私たちの代わりにシャワーを修理してほしい旨をフロントに伝えてくれて、とても助かりました。ほかにも日本人会という日本人留学生をサポートしてくれる団体があり、日本人会の人たちには、中国に来て間もない頃、中国で生活する上でのアドバイスなどをしてくださったので、留学生活に対する不安や心配事をきちんと払拭できました。このような周囲の手助けも、留学生活を快適に過ごせた理由の一つであると思います。

授業では、リーディング・スピーキング・ヒアリングの必修科目と、太極拳・日中文化交流・新聞読解という選択科目をやりました。授業時間は90分ですが、授業の合間に10分の休憩時間が設けられるので、授業時間はあまり長く感じられず、あっという間に感じるが多かったです。それらの授業が始まってから、私はすぐさま言葉の壁というのを身を以て知りました。授業はすべて中国語で行われ、難しい中国語を説明するときにはたびたび英語が使われていました。中国語も英語も中途半端に学んでいた当初の私は授業内容を上手く聞き取れず、先生に質問されて何も答えられずに終わったこともありました。そこで、留学前に中国語や英語をきちんと学んでおけばよかったと心から後悔したことは、今でも覚えています。

クラスメイトにはいろんな国籍の人がいたのですが、皆とても中国語のリーディングやスピーキング、ヒアリングのレベルが高く、授業内容が少しも分からない私はなんて場違いなところに来てしまったのだろうと思いました。しかし、クラスメイトたちはそんな私を優しく手助けしてくれました。分からないところを簡単な中国語や英語を使って教えてくれたり、先生の質問にどう答えたらいいか分からない私に教科書を指差してヒントを教えてくれたりしてくれました。もちろん、クラスメイトたちだけでなく、先生方も親身になって教えてくれました。少しだけ日本語が話せるリスニングの先生は、ときどき日本語で授業内容を説明してくれたりしましたし、リーディングの先生は、漢字が分かる私に筆談で分からないところを教えてくれました。もちろん、他の留学生よりも中国語が話せないということが原因で、日本が恋しくなったときもありました。でも、それは他の留学生や親身になってくれた中国人の先生方の支えがあったからこそ、逃げずに最後までやり遂げられたのです。私の中国語の授業は、彼らの手助けなしでは乗り越えられなかったら

うなどそう思います。また、授業内ではときどき小テストが実施され、それも中国語を習得する上ではかなり役立ちました。内容は授業で習った単語のテストであったり、リスニングテストであったりして、きちんと授業を受け、復習していれば簡単に解けるような問題でした。

太極拳の授業では、同じ大学の体育学科に所属している中国人学生の方が丁寧に教えてくれました。太極拳とは日本でいうところのラジオ体操のようなもので、授業では彼の指導の下、太極拳の型をひたすら練習していました。しかし、毎週ただ太極拳の型を練習するだけではなく、ときおり中国拳法の型や護身術なども習いました。太極拳は一見して簡単そうに見えていたのですが、実際にやってみると、動作一つ一つに意味があるということが感じられ、太極拳とはかなり奥深いものなのだと感動しました。

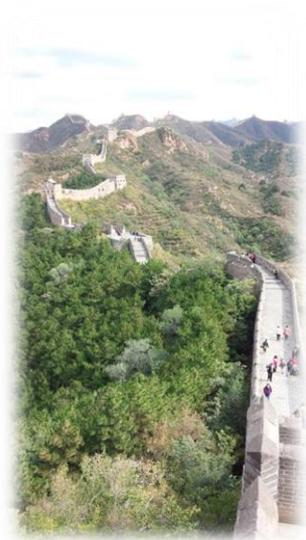
交通の便もよく、大学を出るとすぐバス停があり、観光地へ出掛けたいときなどはよくバスを利用していました。しかし、中国のバスは運転がかなり荒く、立っている時は近くの手すりに掴まっていないとバス内で転倒してしまいそうなほどでした。日本に帰ってからバスに乗ると、運転の安定感に思わずほっとしてしまいます。また、地下鉄も生活の中ではよく利用していました。地下鉄の最寄駅は大学から歩いて15分のところにあり、少々距離があるのですが、中国の地下鉄はどこで降りても4元しか費用がかからないので、休日にはよく北京市内にある有名な観光地巡りなどをしていました。

平日は、曜日によっては午前中に授業が終わってしまう日もあったので、そういう日にはよく大学の近所にあるレストランやパン屋を利用してランチを食べに行ったりもしました。食堂での食事と比べると少し値段が高いのですが、それでもあまり高くないので、気分転換をしたいときなどはよく利用していました。休日は主に観光地巡りをしていました。天安門や万里の長城や故宮博物院などの中国の歴史的建造物や、パンダを見に北京動物園などにも行きました。休日は出掛ける人が多く、午後から行くと混んでしまう場合があったので、休日は早朝に起きて午前から出かけていました。しかし、中国人は皆早起きなので、午前から出掛けても人で溢れかえっているときもありました。日本とは異なる生活リズムを送っているということを改めて感じた覚えがあります。

今回の中国留学は、私にとっての貴重な経験になりました。日本という国で暮らしていると見えないような中国人の姿や、中国での暮らしや文化を目の当たりにできてとてもよかったです。この留学を通して、私は中国を密接に感じるようになりました。こういった点は、日本でずっと生活している限り決して得られないものだと思います。

昨今の日中関係は、さまざまな問題を巡っての小さな諍いによって、あまり良い関係であるとは言えないほどになっています。私が留学を決めたときの日中関係もそのような状態で、あまり中国留学に対する不安は少しありました。日本人だと知って、友好的ではない態度を取られるかもしれないと考え事もありました。しかし、実際中国で生活していく

と、私を日本人だと知って友好的ではない態度を取ってきた中国人は一人もいませんでした。むしろとても親切に接してくれて、私は自分の考えが間違っていたのだと留学を通してはっきりと分かりました。そして、それと同時に、今の日中関係はこうしたお互いに対する理解が足りないせいなのだとも思いました。こうして留学したことで、私は中国への理解を深められたと同時に、新たな価値観なども得られました。心から、中国留学を経験できてよかったと思います。



留学体験レポート

21014106 国際文化学科 2年 細野未佳

私は、留學生活のなかで、中国の様々な観光地へ行きました。そこでは、中国の歴史や文化などを知ることができ、とても有意義でした。私が訪れた中国の観光地の中でも、特に興味深かった観光地を紹介しようと思います。

万里の長城や故宮博物院や天安門など、たくさんの中国内で有名な観光地を訪れましたが、私が特に印象深かった観光地は、中国人民抗日戦争記念館というところでは、満州事変を切欠に始まった日本との戦争についての資料館で、当時中国は日本とどういった戦争をしていたのかが詳しく分かるほど、膨大な情報に溢れた場所です。私が訪れたときは、ちょうど戦後70年という節目で、館内にはたくさんの中国人で溢れかえっていました。みな真剣に館内の資料に目を通して、中国人の歴史認識に対する姿勢を目の当たりにした気がしました。館内には、当時戦争で使われた銃や中国人兵士たちが身に付けていた衣服は勿論、日本人兵士から取り上げた銃やサーベル、そして戦時中の状況を伝えていた日本側の新聞記事までもが展示されていて、どういった戦争だったのかを事細かに伝えようとする膨大な情報量に、思わず驚いてしまいました。そして、この戦争が中国人たちにとってどれほど重要視されているのかがよく分かりました。私が留学していたころの日本関係は、歴史認識を巡っての小さな争いが起こっていました。私は留学中に記念館を訪れ、中国との関係をより良いものとしていくためには、こうした記念館などを訪れることでお互いのこと深く理解する必要があるのだと強く感じました。記念館の入場料は無料なので、是非他の日本人の方にも、気軽にこの記念館を訪れてほしいと思います。

また、この記念館の近くには、盧溝橋事件が起きた場所でもある盧溝橋が実際にあるので、そこもおすすめです。盧溝橋は記念館と違い、入場料を10元ほど払う必要がありますが、行ってみて損はないと思います。盧溝橋は、全長約266メートルの石造りの橋で、マルコ・ポーロが橋を絶賛したことから、西欧では「マルコポーロの橋」と呼ばれ、有名です。私が訪れた時は小雨が降っており、なかなかの悪天候だったのですが、中国人はもちろん、さまざまな外国人の観光客が訪れていました。悪天候にも関わらず、かなりの人が盧溝橋を訪れていて、少し驚いてしまったのを覚えています。盧溝橋の欄干には、それぞれ表情や姿が異なる獅子の像が多く置かれており、まったく同じ獅子像が一つもないというところに驚くと同時に、マルコ・ポーロが何故この橋を絶賛したのかが少し分かる気もしました。

以上のような観光地を直接訪れ、中国の文化や歴史に触れられたことは、私の人生にとって貴重な経験になりました。この中国留学を機に、私の価値観は、日本でずっと過ごしていたときのものよりも良いものになったと思います。

